

教育研究業績書《見本》

平成 年 月 日

氏 名



教育上の能力に関する事項	年 月	概 要
1 教育方法の実践例 (教育内容・教育方法面の取組) ・教育目標の達成度(合格率)の向上	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	①当該教育方法を実践した科目を併記する。 ・ 〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻修士課程の教授として担当の「〇〇〇〇論」(専修科目, 〇年次配当, 半期, 必修〇単位)において実践した。 ②実践例の具体的な内容について, 当該教育方法を実践したことの効果も含めて200字程度で記入する。 ・ 当該科目の履修者の相当数において, 〇〇学会における論文・ポスター発表を促進したところ, 多数の学生が意欲的な取り組みを展開し, うち, 2名は学会において最優秀賞1名, 奨励賞1名の受賞者を輩出することができた。この波及効果により, 継続的に学会発表等に対する意欲的な姿勢が醸成された。
・メーリングリストを活用した授業のサポート	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	・ 〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として担当の「〇〇〇〇論」(専門科目, 〇年次配当, 半期, 必修〇単位)において実践した。 ・ 教員と受講者全員のメーリングリストを開設・登録し, これを用いて情報提供, 質問, 回答や指導を行った結果, 以下の改善が行われた。 (1) 学習者が課外の学習を行う際に出た疑問点やトラブルに対し, 次の授業まで待たずに質問し, 相談し, 解決することができた。 (2) 初心者共通のトラブルとその解決の共有によって, 他の受講者は同じトラブルを経験せずに済んだ。 (3) 学内のインフォーマルな閉じた電子社会で, 技術的な点だけではなく, 電子社会のマナーやエチケットを身に付けることができた。
(成績評価での取組) ・課題・レポートの活用による学習効果の向上	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	・ 〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として担当の「〇〇〇〇論」(専門科目, 〇年次配当, 半期, 必修〇単位)において実践した。 ・ 毎時限の最後にレポート課題を含んだ次回講義内容の解説資料を渡し, 次回講義の2日前までに「予習レポート」を提出させた。レポートは3段階で評価し, 講義の冒頭で返却した。これにより学生は目的を持って授業に参加でき, 教員は学生の理解度に配慮した授業設計ができた。レポートを課すグループの試行結果から, 「予習レポート」は教育目標の達成度向上に効果があることが分かった。
(学習に対する支援) ・オフィスアワーの活用による教育効果の向上	平成〇〇年〇月 ～平成〇〇年〇月	・ 〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として実践した。 ・ シラバスを活用して, オフィスアワーの開設を周知した結果, 毎授業後, 学生が関心を持って, 質問や授業の進め方について, ディスカッションできる環境を構築することができた。その成果として, 学生の授業に対する動機付けが明確になったことが分析結果として得られた。

【記入上の注意事項】

担当授業科目に関連する教育上の能力に関する事項及び研究上の実績に関する事項を年月日順(過去→現在)に簡潔に記入してください。教育上の能力に関する事項には, 教育経験のある方のみ記入してください。

現在に至る状況を記入してください。

・学部, 大学院における実践例に係る以下の取り組みについて記入。

- 1) 学生が理解するための努力(授業の工夫, 教材開発)
- 2) 新しい事例研究への取り組み
- 3) 授業内容が実務教育に関連する場合の指示
- 4) 新しい学問分野の授業への導入状況
- 5) 小テスト, レポート課題の提出と添削
- 6) マルチメディア機器等の利用
- 7) 学外授業の実施状況
- 8) 卒業論文等の指導, ゼミ合宿等の実施状況
- 9) フレッシュマンセミナーなどの実感教育による教育指導の実践状況
- 10) シラバスに沿うテキストの作成状況, 教科書以外の教材利用

【1)～10)に対応する代表的な事項例】

- 演習・実習の効果的な活用
- 教育におけるE-mail利用
- マルチメディア技術の利用
- 講義内容のWeb上での公開
- 遠隔技術の利用
- 視聴覚教育技術の利用
- 市販教材の活用の工夫
- 体験型学習の導入
- 双方向授業の実践
- ディベート, ディスカッションの導入
- プレゼンテーションの導入
- ティーチング・アシスタントの活用
- 学生の授業評価の活用とそのフィードバック
- その他, 教育効果を高めるための取り組み

現在に至る状況を記入してください。

・学部, 大学院における実践例に係る以下の取り組みについて記入。

- 1) 成績評価方法や評価基準の学生に対する周知状況
- 2) 多様な成績評価の導入状況(レポートや小テストの活用状況及びその機能状況)
- 3) 合理的な成績評価基準の設定

【1)～3)に対応する代表的な事項例】

- 課題・レポートの活用(効果的な題材, 評価方法等, 工夫点について)
- シラバスの活用

現在に至る状況を記入してください。

・学部, 大学院における実践例に係る以下の取り組みについて記入。

- 1) シラバス等による指示の実施状況(予習・参考文献)
- 2) オフィスアワーの実施状況, 学生の利用状況

【1)～2)に対応する代表的な事項例】

- シラバスの活用
- 学生の授業外における学習促進のための取り組み

【記入上の注意事項】

現在に至る状況を記入してください。

- ・ 学部、大学院における実績について記入。
- ・ 作成した教科書、教材、講義で教科書として使用している著書、教材等の概要（後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合、「（再掲）」と表示）

現在に至る状況を記入してください。

- ・ 学部、大学院における評価の状況について記入。
- ・ 自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実（その事由と評価内容）
- ・ 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価
- ・ 学生による授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの
- ・ 学外の評価機関等が行った評価
- ・ 上記以外で学内諸機関等が行った評価（客観性を持ったものについて記載）等

現在に至る状況を記入してください。

- ・ 学部、大学院における取組状況について記入。
- 独自の授業に関するアンケートの実施状況
- 授業評価アンケート結果を分析し、それをもとに授業改善に活用した点
- F D講演会、授業参観、組織的な取組の中での役割等のF D活動の取組状況
- 教育改善に関する著書、学術論文、研究報告、講演発表など
- （後の「著書、学術論文」との重複も可。その場合は（再掲）と表示する。）

現在に至る状況を記入してください。（実務家教員のみ）

- ・ 大学から受入れた実習生に対する指導歴（看護・福祉実習、企業実習等）
- ・ 企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要
- ・ 上記のほか、所属機関や関係機関等において行った講義、講習、職員・関係者等に対する指導、海外等における留学、調査研究経験等を広く記載。

現在に至る状況を記入してください。

- 大学教育改善に関する団体等での活動の概要
- （例：財団法人大学基準協会〇〇系専門評価分科会委員、日本技術者教育認定機構（JABEE）認定・審査調整委員会委員）
- 国家試験問題の作成
- その他教育上で関連する項目について 等

<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>〇〇学実習画像集</p>	<p>平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇月</p>	<p>①当該教育方法を実践した科目を併記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇大学〇〇学部〇〇学科の教授として担当の「〇〇〇〇論」（専門科目、〇年次配当、半期、必修〇単位）において実践した。 <p>②教材の使用目的、具体的内容を200字程度で記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スライドをCCDカメラで撮影して、コンピュータ上で供覧できるようにした。この画像集は実習中、自由に学生が供覧できるようにし、希望者にはコピーを許可した。この画像集と教科書により、学生は自宅で使用する標本を見ながら復習することが可能となった。
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>〇〇年度学生による授業評価アンケート</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p>平成〇〇年度に実施された授業評価アンケートによれば、担当科目に対する質問項目全体の肯定的評価の平均値が、所属学部の平均値（××.×）を大きく上回っていた。とりわけ「授業内容の必要性や位置付けなどの提示」、「授業に集中できる環境整備」、「授業中での重要なポイントの明示」など多数の項目にあって、満足度指数が極めて高く、総合的な質問項目に関して、学部及び全学の平均値を顕著に上回っていた。（××.×～××.×）</p>
<p>〇〇年度教育優秀職員表彰</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p>〇〇学部において、学生の実践力を高める教育として、マルチメディア教材によるインタラクティブな授業を実施し、恒常的に学生とのコミュニケーションを図る環境を整備した結果、学生の理解度が格段に向上し、学部所属の他の教員の模範となるところが大きく、現在、〇〇学部のスタンダード手法となりつつある。この成果に対して、本学教育優秀職員表彰要項に基づき、大学協議会の議を経て、学長から表彰された。その成果を取り纏めて、学会へ教育成果論文として掲載され、大きな反響を得ている。</p>
<p>4 教育の質の向上及び改善のための取組</p> <p>「同僚に学ぶ」をテーマとした「公開授業」の実施</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p>本学におけるF D活動の一環として「公開授業」を実施した。公開授業後、授業を参観した同僚教員及び学生からの意見を踏まえて、授業改善に繋げている。具体的な改善の取り組みとしては、学生の実感的教育を重視して、フィールドワーク的な要素を多分に盛り込んだ結果、学生が授業に対して意欲的に取り組む姿勢がみられるようになった。</p>
<p>5 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>各地の〇〇センター等での〇〇〇〇に関する講演・セミナー研修会講師</p> <p>・ 夏季教育セミナー</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p> <p>平成〇〇年〇〇月〇〇日</p>	<p>*開催場所、参加者数、講演テーマ名及び概要等…。</p> <p>これまでの〇〇〇〇研究などの成果・実績のもとに、全国各地で講演・セミナーを展開してきた。いずれの講座も反響が高く、同一地区で複数回にわたって開催した事例もあり、改めて学校経営等に関する見識の重要性が検証され、現在も継続的に広くその思考法・手法の普及に努めている。</p>
<p>6 その他</p> <p>・ 国家試験問題の作成</p>	<p>平成〇〇年〇〇月</p>	<p>〇〇〇士国家試験の（分野・領域名称等）出題委員を担当した。</p>
<p>・ 特色ある大学教育支援プログラム審査委員</p>	<p>平成〇〇年〇月～ 平成〇〇年〇〇月</p>	<p>特色ある大学教育支援プログラム（グループ1）の審査委員を務めた。</p>

(氏名)

研究業績に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
著書(1) ○○○○○○	単著	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 A○判 全○頁
著書(2) ○○○○○○ (○○シリーズ 第○巻)	共著	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 A○判 全○頁 担当部分：第○章 ○○○○ (P○～P○) 編著者：○○○○ 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
著書(3) ○○○○○○	編著	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。(P○～P○) A○判 全○頁 担当部分：第○章 ○○○○ (P○～P○) 編著者：○○○○ 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
学術論文(1) ○○○○○○ (査読付き論文) インパクトファクター ○○.○	単著	平成○○年○月	○○学会誌「○○○」 第○巻第○号	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 論文記載：P○～P○ 担当部分：共同研究につき抽出不可能 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
学術論文(2) ○○○○○○ (博士論文)	単著	学位授与年月	学位授与大学名	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 全○頁(または、「400字詰原稿用紙換算○枚」)
その他(1) (翻訳) 原著者 邦訳表題 原語表題	共同	平成○○年○月	○○出版社	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 全○頁 担当部分：○○○○○○○○ (P○～P○) 監修：○○○○ 共訳者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
その他(2) (学会発表) ○○○○○○	共同	平成○○年○月	○○学会第○回大会 (於○○大学)	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 担当部分：○○○○○○○○ 共同発表者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○
その他(3) ○○○○○○	共著	平成○○年○月	「○○○紀要」 第○巻第○号	○○○○・・・ (明確かつ簡潔に記入) ・・・○○○○。 論文記載：P○～P○ 担当部分：○○○○○○○○ (P○～P○) 共著者：○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○, ○○○○

【記入上の注意事項】

現在にいたる生涯履歴を全て記入してください。

- ①「著書、学術論文等の名称」は、著書、学術論文及びその他の順に適切に区分し、それぞれ年月日順（過去→現在）に、番号を付して記入してください。また、査読の有無、当該論文の最新のインパクトファクターを記入してください。
なお、年月の表記は、年号・西暦のいずれかに統一してください。
- ②「概要」には、著書、学術論文等の概要及び頁数について、各著書、学術論文等ごとに明確かつ簡潔（100字以内）に記入してください。なお、共著の場合は、本人の担当部分の概要及び掲載頁（例 P○○～P○○）を明記し、また、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を当該著書、学術論文等に記載された順に記入してください。著作者氏名列挙の際は、本人氏名にアンダーラインを付してください。
- ③共著の場合で本人の担当部分を抽出するのが困難な場合は、その理由を明記してください。（例 共同研究につき本人担当部分抽出不可能）
- ④一冊の本を数人で執筆した場合、当該部分は単著であっても共著として整理してください。
- ⑤学位論文については、その旨明確になるよう記入してください。
- ⑥発表学会誌等は、その名称の他、巻・号等まで明記してください。
- ⑦著書・学術論文等は発行済みの業績のみ対象。掲載予定のもの、プログラム等に掲載済みのものでも、未発表である場合は記載しないでください。
- ⑧外国語で記述された業績であっても、概要は日本語（又は日本語併記）で記入してください。
- ⑨共著者があまりにも多数の場合、本人を含めた代表的な人を最低10名程度は記載し、残りは「ほか～名」と記入してください。
- ⑩その他に学会発表を記載する場合は、過去5年以内のものに限ります。

(氏名)

特許に関する事項				
発明の名称	出願又は取得年月日	概 要		
〇〇システム 登録番号 特許第〇〇〇号	平成〇〇年 〇〇月〇〇日	①特許の内容, 本人担当部分, 共同研究者名について 明記		
研究活動状況に関する事項				
外部資金の獲得状況				
研究内容	受入先	金額	年 月	代表・分担 の別
(1) 科学研究費補助金 「基盤研究」 課題名: 〇〇〇〇に関する研究	日本学術振興会	0, 000,000円	平成〇〇年〇〇月 ~平成〇〇年〇〇月	代表
(2) 〇〇〇〇研究	〇〇〇〇財団	0, 000,000円	平成〇〇年〇〇月 ~平成〇〇年〇〇月	代表
(3) 〇〇〇〇に関する研究	〇〇〇〇株式会社	0, 000,000円	平成〇〇年〇〇月 ~現在に至る	分担
共同研究の実績				
研究内容	機関名		年 月	
(1) 〇〇〇〇研究	株式会社〇〇〇〇		平成〇〇年〇〇月~平成〇〇年〇〇 月	
(2) 〇〇〇〇研究	〇〇〇研究所		平成〇〇年〇〇月~平成〇〇年〇〇 月	
(3) 〇〇〇〇に関する研究	〇〇大学〇〇学部		平成〇〇年〇〇月~現在に至る	

【記入上の注意事項】

現在に至る生涯履歴を全て記入してください。

- ・担当する教育研究の内容に関するもの等について記入。
特許, 工業所有権等の取得状況
特許, 工業所有権等の登録名称, 登録番号, 概要を記入。
現在, 特許申請中のものについては, 申請状況を記載。

現在に至る状況を記入してください。

- ・企業の方は, 研究活動状況に関する事項欄 (外部資金の獲得状況及び共同研究の実績) には, 必ずしも記入する必要はありません。
- ・年月日順 (過去→現在) に, 番号を付して記入してください。

現在に至る状況を記入してください。

- ・年月日順 (過去→現在) に, 番号を付して記入してください。
- ・他研究機関 (産・官・学, 海外を含む) との共同研究の実績を記入してください。